

令和7年度 第2回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和7年7月9日(水) 10:00～11:30

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

7月に入り、暑い日が続いている。昔に比べ、子どもが外で遊べなくなってきた。そういったことから、子ども同士のつながりの薄さが心配である。世の中の情勢も踏まえ、子どもたちにどのような力をつけるか、学校のためにできることは何かということを考える場にしていきたい。

4 学校長挨拶

運営協議会参加のお礼と、日程変更のお詫び。加えて、委員長、副委員長がコミュニティスクール学習会に参加してくださったことへのお礼。

1学期も最終盤に差し掛かかき急激に暑くなったが、学校全体を見渡して大きな事故等はない。

直近の大きな行事としては5年生の自然教室があった。昨年度はスズカト(鈴鹿青少年の森)に行き、施設の指導のもと様々な活動に取り組んだが、今年度から深伊沢小、椿小、庄内小と鈴峰中校区4小学校合同で鈴西小で自然教室を行った。地域の皆様からのご協力もあり、昨年度はできなかった飯盒炊爨も実施することができた。午後からは「鈴西の森」を活用したウォークラリーなど充実した活動を計画実行することができた。他の4校の子どもたちとも交流することができ、子どもたちにとってもたくさんの仲間と交流しながら学ぶ良さを感じることができた1日になったと思う。大きな事故もなく進めることができたので、来年度以降各小学校持ち回りで自然教室を実施する予定になっている。来年度は椿小学校での開催予定。

また、今年度から学力の向上や子どもたちが自ら学ぼうとする態度の育成を目的にチャレンジタイムを5月30日と6月13日と27日に行い、7月11日にも行う予定である。

学期末を控え、あゆみ渡し等が控えているが、教員のほうも着々と準備を進めている。暑い日が続いていくことになると考えられるが熱中症等による大きな事故もなく、このまま元気に夏休みに入っていけるといいと思う。

5 協議事項

(1) 教育活動の状況について

- ・ 児童の様子

(学力)

6年生が全国学力学習状況調査、4・5年生がみえスタディ・チェックに取り組んだ。全国学力学習状況調査の結果は、7月末ごろ結果が届く予定。みえスタディ・チェックの結果は次の通り。

【4年生】国語4.8ポイント、算数7.1ポイント県平均を下回る。

【5年生】国語7.4ポイント、算数は9.7ポイント、理科7.5ポイント県平均を上回る。

平均に及ばなかった部分について今後、分析を行い授業改善につなげていく。

1学期に4回チャレンジタイムを実施している。対象学年は3～6年生、保護者の同意のもと学習に困り感があり、主体的に学習を希望する児童について任

意で参加する形式とした。各学年7から10人ほどが集まって勉強している。
この活動により学力とともに自己肯定感も高まることを期待している。

(成長の様子)

鈴西小の子どもたちは、地域の方の強力なバックアップがあり、地域でたくさん
さんの体験をさせていただき、成長している。

1、2年生のさつまいも植えや2年生、3年生の校区探検、サーチ学習にお
ける中学年は地域防災、高学年はお茶の産業について実際に教えていただくな
ど本を読んだりインターネットで調べたりするだけでなく、実際に地域の人の
思いについて直に触れている。サーチ学習の成果については12月2日（火）
開催の「森のまつり」で発表していく予定。

(健康、安全)

昨年度から定期的に校内のWBGT値（熱中症指数）を計測及び掲示し、数
値に沿って校内活動の実施の有無について適切な判断を進めている。子どもた
ちもWBGT値に注目している。昇降口前の掲示板で数値を見て「大丈夫」な
どと呟きながら運動場に出ていく様子も見られる。今年は6月19日にWBGT
値が31.9を記録したため、外遊びや中学年のプール授業がなくなるとい
ったこともあった。子どもたちの活動の幅が狭まることは残念だが、安全や健
康は守られているので、今後も測定は続けていく。

(課題)

生徒指導上の課題として、昨年度あげた①廊下走り②「死ね」「殺す」等の
言葉遣いについて

- ・廊下走りについて、2～6年は意識が高まっているが、1年生が多い。今後
も指導を重ねていく。
- ・言葉遣いについて、「死ね」「殺す」という言葉は0ではないが、昨年度より
は減ってきた。

しかし、ケンカの際に相手に「中国人」と言ってしまうという事案があった。
相手の子や保護者が中国籍ではないが、「バカ」「あほ」などの悪口と同類で使
用したということがわかってきた。このことから、鈴西小の児童には地域柄、
多文化理解の学習の機会が少ないことが反省として挙げた。今後、多文化理
解の学習を進めていくことを確認した。

持ち物について、昨年度、シャープペンシルをもってきている児童について
話したが、年度末に子ども及び保護者向けに文書を配付したことや担任が粘り
強く指導した結果、少なくなっている。

特に6年生では、修学旅行を自分たちで行程を計画する等自由に楽しいもの
にするため、自分たちでルールを確認し守ることを4月当初から意識して様々
な活動を行っている。このように、「決まりだから守る。」という視点だけでな
く、自分たちの学習活動の充実や生活安全のために守る、ということも理解さ
せていきたい。

・ボランティア協議会

6月26日（木）にボランティア協議会を行った。昨年度から募集を拡大し
22名でスタートしたボランティアが今年度は31名の方に協力していただ
けることになった。

今年度既にたくさんの方にボランティアに来ていただいております、6月に行わ
れた4校合同の自然教室では、飯盒炊爨を行うにあたって子どもたちにアドバ
イスいただくことで怪我なく活動することができた。また、同じく6月から始
まった水泳授業では、この暑さにもかかわらずプールサイドに立っていただい
た。ちょっとした見落としが命にかかわる授業なので教員も緊張感をもって授
業を進めているが、ボランティアさんの目があることがとても心強い。

そのほかにも、登下校で、登校しにくい子のフォローをしていただいたり、

書写や家庭科等の授業のお手伝いをさせていただいたりたくさん助けていただくことで教育活動が活発になっている。今後、ボランティア活動がますます盛んになるよう地域コーディネーターとも相談しながら進めていきたい。

- ・今年度の取組について（研修部より）

今年度の研修主題を「対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい解決していく子の育成」とし、算数科を窓口研修を進めている。課題に対する答えを友達と試行錯誤しながら考えあう授業をつくっている。答えが出ても、どのように求めたか説明できないという課題もある。子ども同士で教えあったり新しい方法を探しあったりする対話を大事にしている。また、答えにたどりつけなくても、頑張り姿を認めている。諦めそうになっている子には、指導者が途中まで手助けしたり、ヒントを与えたりして諦めさせないようにしている。授業は教師の話聞くだけでなく、わかる子のところへ行って聞く、ヒントカードを見て考えるなど個々や小グループで活動している。これは、どうすれば課題解決できるか子ども自身が主体的に動くような授業にしたいと考えているからである。

算数科を窓口としているが、今後、子どもたちが課題にぶつかったとき、生かしてほしい。「〇〇を見ればいい」「〇〇に聞こう」「〇〇を使って調べればいい」などいろいろな手段で、あきらめず粘り強く、立ち向かっていく力を育みたい。

例えば、5年生では、基礎基本が定着していない子もいる。そういう子は授業にも参加しづらい。そこで、学力向上の取組として、チャレンジタイムを実施している。これはやりたい子だけ残っている。この時間は、自分にあった課題に取り組んでいる。この取組で今やっている授業が分かるようになればいいと思う。やりたい、わかりたいという気持ちはとても伝わってくる。残っていった子は「次、いつ？」と前向きな姿も見せていた。

（2）2学期の行事について

（ア）運動会 10月25日（土）

- ・学年部演技（低・中・高学年のダンス等表現運動）
学年部競技（低・中・高学年の競技） 徒競走 リレー を行う。
- ・熱中症対策 当日まで・・・練習時間の短縮 効率のよい練習計画と方法
当日 ・・・円滑な計画及び進行 水分補給の指示
- ・当日は午前中で競技を終了し、弁当を食べずに下校する。
(12時10分頃)

- ・テント設営なし。
- ・保護者参観可とする。

（イ）森のまつりについて 12月2日（火）

- ・生活科、総合的な学習の時間に学習してきたことをもとに、子どもたちがどの行事についても、ご都合のつく方は、ぜひご参観下さい。

（ウ）来年度の2学期の行事について

- ・来年度の運動会 10月24日（土）に行いたい。（熱中症対策のため）
内容は、学年部演技、学年部競技、各学年の徒競走、リレー
- ・これに伴い、修学旅行を11月上旬に実施する。

《委員の皆様から》

多文化理解について

いろいろな子供がいて当たり前である。クラス替えもなく、転出入も少なく、ずっと同じメンバーで過ごすことが多い鈴西小の子どもたちである。そういった環境からも、世の中へ出たとき、相手を理解することは大切であり、多文化理解は必要であると考えます。

→3年生では朝の挨拶で、いろいろな国の言葉であいさつをしている。そういったところからスタートしている。

出前教室という取り組みも考えられる。

スリランカから来た子が以前いたが、コミュニケーションをとるのが難しかった。そういった子とコミュニケーションをどうとるか。

6 情報交換・その他

- 教育講演会 8/8(金) 13:30 開始 学校でオンライン〈別紙〉
- 人権フォーラムれいほう 12月 9日(火)13:45～鈴峰中
- 中学校区合同学校運営協議会 11月25日(火)15:00～鈴峰中
- 小中連携の取組
 - ・校区夏季教育研修会 8/1(金) 鈴峰中

7 教育委員会より（鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課）

- チャレンジタイムに関わって、自分がわからないところを学習しているということで『わからない』ということがわかるというのはすごいことである。わからないところがわからない子もいる。教師が指導をしていく中で、どこで躓いているのか判断したり、あるいは子どもと相談したりしながら、見つけていく。
普段の授業の中で、躓いているから戻って復習するということは時間的にもなかなか難しいものである。チャレンジタイムはとてもよい取組だと思う。